

福祉Moverを活用した送迎業務デジタル化実証実験 「チャレンジ事業所募集」

福祉現場の効率化・負担軽減を目指して

ふくしDX(送迎のデジタル化・共同化等)でデイサービス等業務の約3割と言われる送迎の負担を軽減し、業務効率を上げ、働きやすい職場、人材の確保に貢献することが目的です。

また、将来的には送迎の連携や共同運行なども見据え、デジタル化することで連結する基盤づくりを図ります。



この事業は、一般社団法人SMARTふくしらボが一般財団法人トヨタモビリティ基金からの助成を受け共同で実施します。

一般社団法人SMARTふくしらボとは



vision

福祉の現場でICT利活用やDXが進み、より本来の仕事に注力できるようになり、働きやすさと共にやりがい生まれる。

mission

3年間で福祉分野のデジタル化とDXを急加速させるためのエンジンになる。

【黒部市社会福祉協議会との関係性】広域的な活動と調査研究機能の強化と独立

○広域的な活動のプラットフォーム

・黒部市内に限らず、近隣との連携や全国各地との共同研究など、広域で活動を行うためのプラットフォームになる。

【2022年度】

- ①国・県のモデル事業「小規模法人ネットワーク化事業」(黒部市、入善町、魚津市の13法人で構成)の事務局
- ②トヨタモビリティ基金との共同研究事業「福祉版移動シェアサービス SW-MaaS開発」(黒部、豊岡、高崎)

○調査研究機能の強化と独立

・黒部市社協の経営戦略係で進めていたシンクタンク機能、新規事業開発等の事業の一部を社団法人へ移行。企業との共同研究や民間財源を活用し、調査研究機能を強化していく。行政や社協からの助成金は受けず(事業受託はあり)、独立性を担保して活動を進めていく。

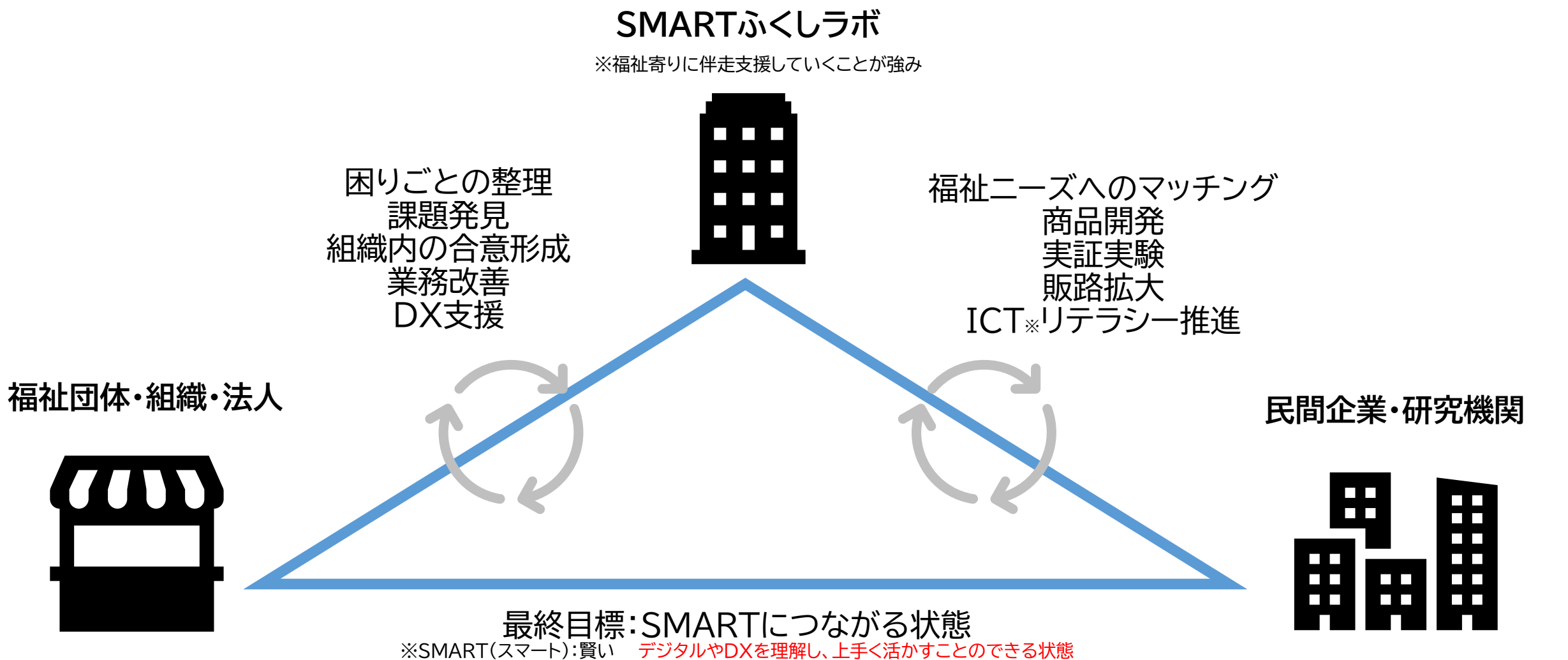
○持続可能な事業推進体制

・黒部市社会福祉協議会から総務課経営戦略係から1名を兼務の体制で立ち上げ支援(2年目)と事業化支援を行う。以降、次年度より自主財源での運営を確立し、持続可能な体制をつくる。

2022年4月に社会福祉法人黒部市社会福祉協議会から派生し、広域での「福祉分野のデジタル化、DXを加速させるために組織」として立ち上げた団体です。

【SMARTふくしらボのポジション】

簡単に言うと、
福祉団体と民間企業・研究機関の間にはコーディネートがいる



※リテラシー: 「(何らかのカタチで表現されたものを)適切に理解・解釈・分析し、改めて記述・表現する」

一般財団法人トヨタモビリティ基金とは



より良い モビリティ社会づくり

トヨタ・モビリティ基金は、多様なパートナーとともに、移動に関わる国内外の社会課題の解決に取り組んでいます。

志を同じくする人たちとの協働を通じ、より豊かで持続可能な未来社会の実現に向けて、イノベティブな技術、仕組みづくりに果敢にチャレンジし、移動の楽しさを追求していきます。

[詳細を見る](#)



行動指針 - トヨタ・モビリティ 基金（TMF）綱領

- 人々の自由な移動の実現を通じて、豊かで持続可能な将来社会におけるレガシーとなる活動をグローバルに行う。
- 世の中を変えるイノベティブな技術、仕組みの実現に向けチャレンジする。
- 同じ志を持つ多様なパートナーと共に、コラボレーションしながら目標の実現を目指す。
- 活動を通して学び、その結果を広く社会に共有する。

CROSS MOBILITY PROJECT

クロスモビリティプロジェクトとは、
市町村の枠を超えて連携し、福祉における移動(送迎)の課題や
今後求められる新しい福祉サービスの開発に向け、
デジタル化やDX推進を図り、広域で課題解決に取り組むものです。



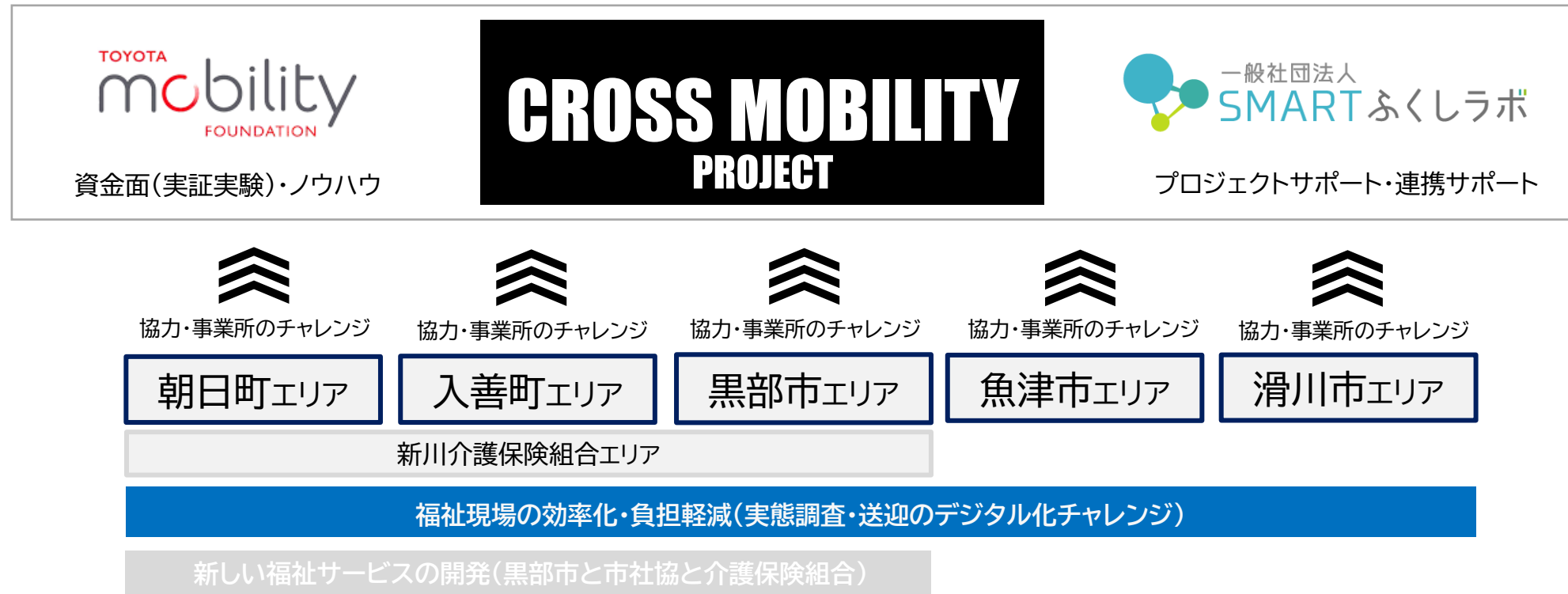
資金面(実証実験)・ノウハウ



プロジェクトサポート・連携サポート

クロスモビリティプロジェクト(CMPJ)の一つの事業として 送迎業務のデジタル化チャレンジを行います。

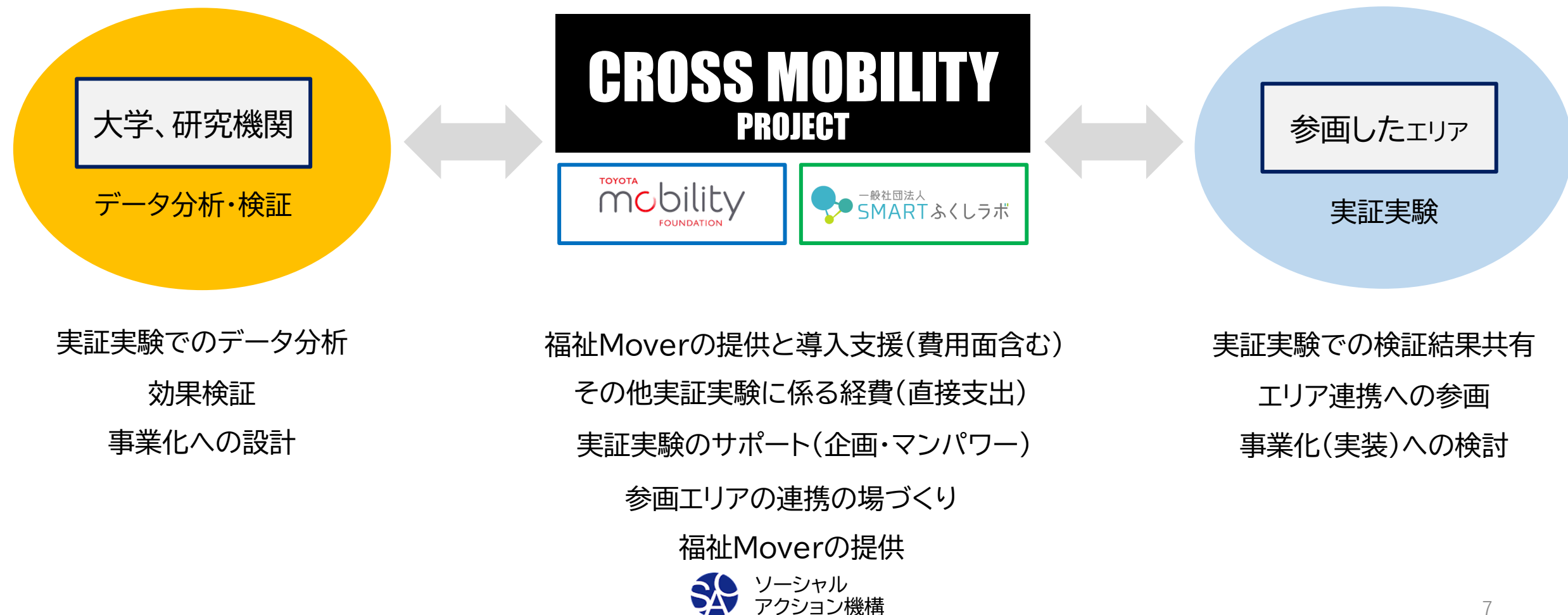
それぞれの地域(市町村)が移動で抱える課題は、ほぼ同じ。
点ではなく面で取り組むことで、課題解決のスピードとインパクトを高める



様々な実証実験と実装化に向けての研究
それぞれのエリアの特性を生かしたしくみづくりノウハウや結果の共有、エビデンスの蓄積

支援体制

トヨタモビリティ基金とSMARTふくしらボの支援体制



プロジェクトの柱となる 2つのプログラムを各エリアで取り組む (2023年度)

20事業所の導入実証実験(予定)

福祉現場の効率化・負担軽減

ふくしDX(送迎のデジタル化・共同化等)でデイサービス業務の約3割と言われる送迎の負担を軽減し、業務効率を上げ、働きやすい職場、人材の確保に貢献する。



福祉Mover(アプリケーション)を活用した
送迎のデジタル化

新しい福祉サービスの開発

効果的な介護予防総合事業のメニュー開発で、「移動困難となる人÷要支援1.2、要介護1」の対象者へ移動手段となるサービスを提供する。



←こちらから福祉Moverの紹介動画がご覧いただけます。

一般社団法人ソーシャルアクション機構HP <https://socialaction.net/>



福祉Moverとは…

送迎業務をデジタル化し、送迎担当者、車両担当者、施設管理者、利用者のストレスを軽減するアプリサービスです。

従来のアナログ管理



ホワイトボード送迎表



利用者宅の地図のコピー



土地勘がなく、
道順把握が大変…



手作業が多くて
工数がかかる…



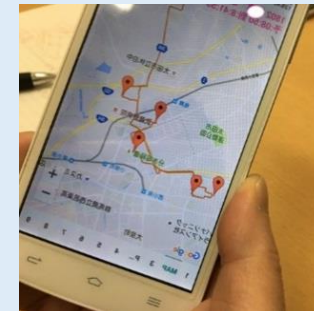
車両の稼働状況が
分からない…



福祉Moverによるデジタル管理

1直	2直	3直
1 1 キャラG4 92 定員:7 車椅子:4 1人 出発:08:10 中子子△ 計算 到着:08:20	2 1 ハイエース 470 定員:8 車椅子:2 2人 出発:08:30 山定△ 生竹△ 計算 到着:08:45	3 1 パネットG2 123 定員:5 車椅子:2 2人 出発:08:30 義八子△ 狩江△ 計算 到着:08:45

送迎担当者スケジュール
簡単作成機能



送迎ナビシステム



ナビに従うだけで
楽に目的地へ！



工数大幅削減で
業務効率化！



車両の稼働状況を
リアルタイム管理！

福祉Mover導入のメリット

送迎担当者・車両担当者・施設管理者、利用者がそれぞれ抱えているお困りごとの解決につながります。

送迎担当者:ナビシステムで、経験浅でも円滑な業務が可能に

【お困りごと】

普段通らない道を送迎するのは不安…



車両担当者:既存業務の自動化で、大幅な工数削減が可能に



【お困りごと】

仕事が属人化して残業の温床に…



【お困りごと】

送迎業務をデータ化したいけど、
どうしたらいいかわからない…

【お困りごと】

今日はいつもより遅いな、
いつ到着するんだろう…



施設管理者:送迎車両における稼働状況の一括管理が可能に

利用者:いつ送迎に来るか常時把握が可能に

車両担当者向け メリット 送迎表をPC上で簡単管理

一部紹介 ※詳細は別紙

定員に対する乗車人数・空きシート数など送迎車両全体を俯瞰して見ることができます。**ドラッグ&ドロップで送迎表を簡単にカスタマイズ**できます。

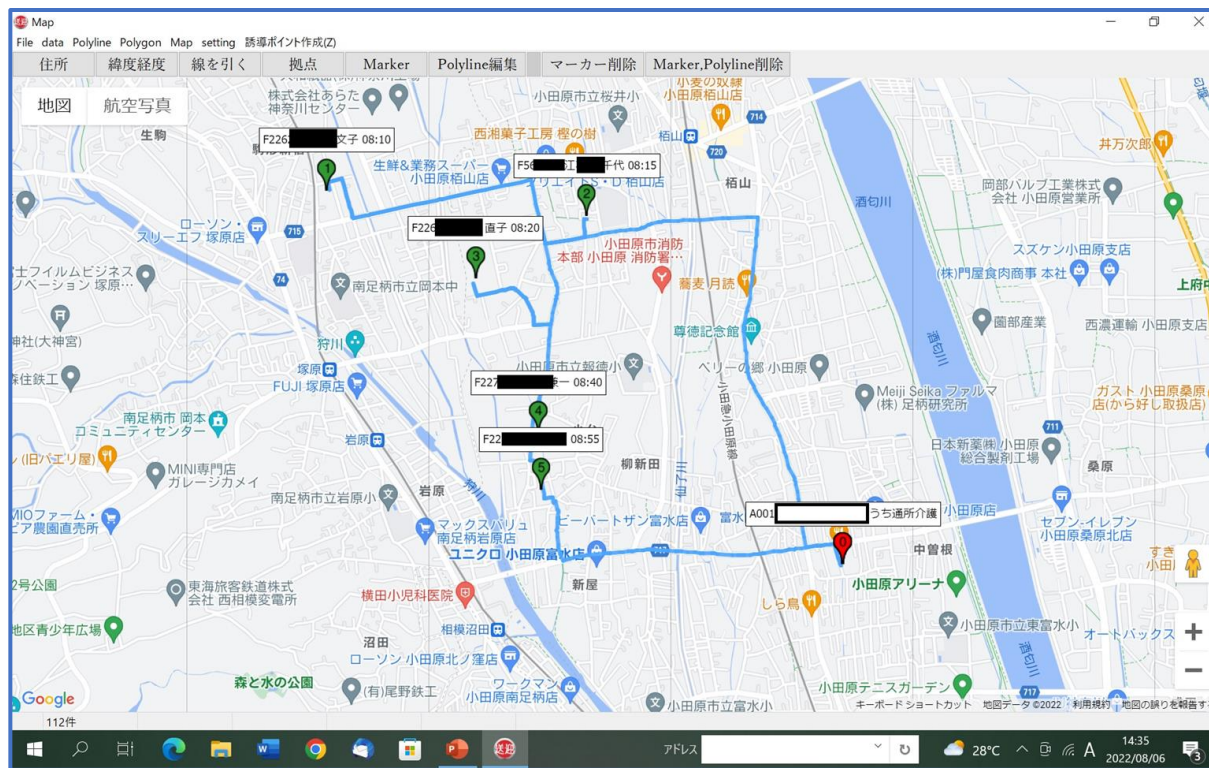
デジタル送迎表の表示例

シムINDEX				
1頁	2頁	3頁	2画面	表示範囲 1..2
1 1 キャラG4 92 定員:7 車椅子:4 1人 出発:08:10 中 千 子 △ 計算 到着:08:20	2 1 ハイエース 470 定員:8 車椅子:2 2人 出発:08:30 山 定 △ 生 竹 △ 計算 到着:08:45	3 1 パネットG2 123 定員:5 車椅子:2 2人 出発:08:30 鹿 八 子 △ 狩 き 江 △ 計算 到着:08:45	4 1 キャラG2 1473 定員:8 車椅子:2 2人 出発:08:30 丸 正 △ 小 坂 恵 △ 計算 到着:09:16	5 1 タント 8282 定員:3 車椅子:1 2人 出発:08:35 齊 金 郎 △ 計算 到着:08:50
1 2 キャラG4 92 定員:7 車椅子:4 2人 出発:08:30 青 照 △ 木 壮 △ 計算 到着:08:50	2 2 ハイエース 470 定員:8 車椅子:2 4人 出発:08:50 横 サ 子 △ 鈴 郁 △ 泉 久 △ 金 昇 △ 計算 到着:09:35	3 2 パネットG2 123 定員:5 車椅子:2 2人 出発:09:00 町 秀 △ 古 島 子 △ 計算 到着:09:35	4 2 キャラG2 1473 定員:8 車椅子:2 4人 出発:08:55 連 玉 △ 中 公 △ 水 道 △ 奈 千 子 △ 計算 到着:09:50	5 2 タント 8282 定員:3 車椅子:1 2人 出発:09:05 大 玉 W 浅 芳 △ 計算 到着:09:50

車両担当者向け メリット 効率的な送迎順を推薦提案

効率の良い送迎順は、システムが自動で推薦してくれます。
 ルートの確定は**人が関与するため、様々な状況・都合を考慮したルート選択が可能。**

システムが推薦する送迎順の表示例



最適な送迎順を自動で計算してくれる
 のでルートの組換も簡単にできます。

計算結果	
最適順	
213:15分	距離:4.6km
132:15分	距離:5.0km
312:20分	距離:6.8km
123:20分	距離:7.0km
231:15分	距離:8.2km
321:25分	距離:12.4km
123	

車両担当者向け メリット 日報作成の自動化

送迎業務がシステム上でデータ化(CSV化)されるため、**日報も自動作成することが可能です。**

自動作成された送迎記録の表示例

日付		2022/6/1			水曜日		車両	エスクァイア(6446) 4号車
No.	氏 名	住 所	出発	予定	到着	持物	備 考	
1	利用者1	鶴光路町	08:30	08:40			鍵確認	
2	利用者2	鶴光路町		08:45			鍵確認	
3	利用者3	下阿内町		08:50				
4	利用者4	下阿内町		08:55				
5	利用者5	新堀町		09:00	09:10			

車両担当者向け メリット 運転前チェックのスマホ一元化

一部紹介 ※詳細は別紙

運転前点検・アルコールチェックの記録もスマホで一元管理できます。また、入力を完了しないとナビが作動しない仕様に設定できるため、記録漏れ対策も期待できます。

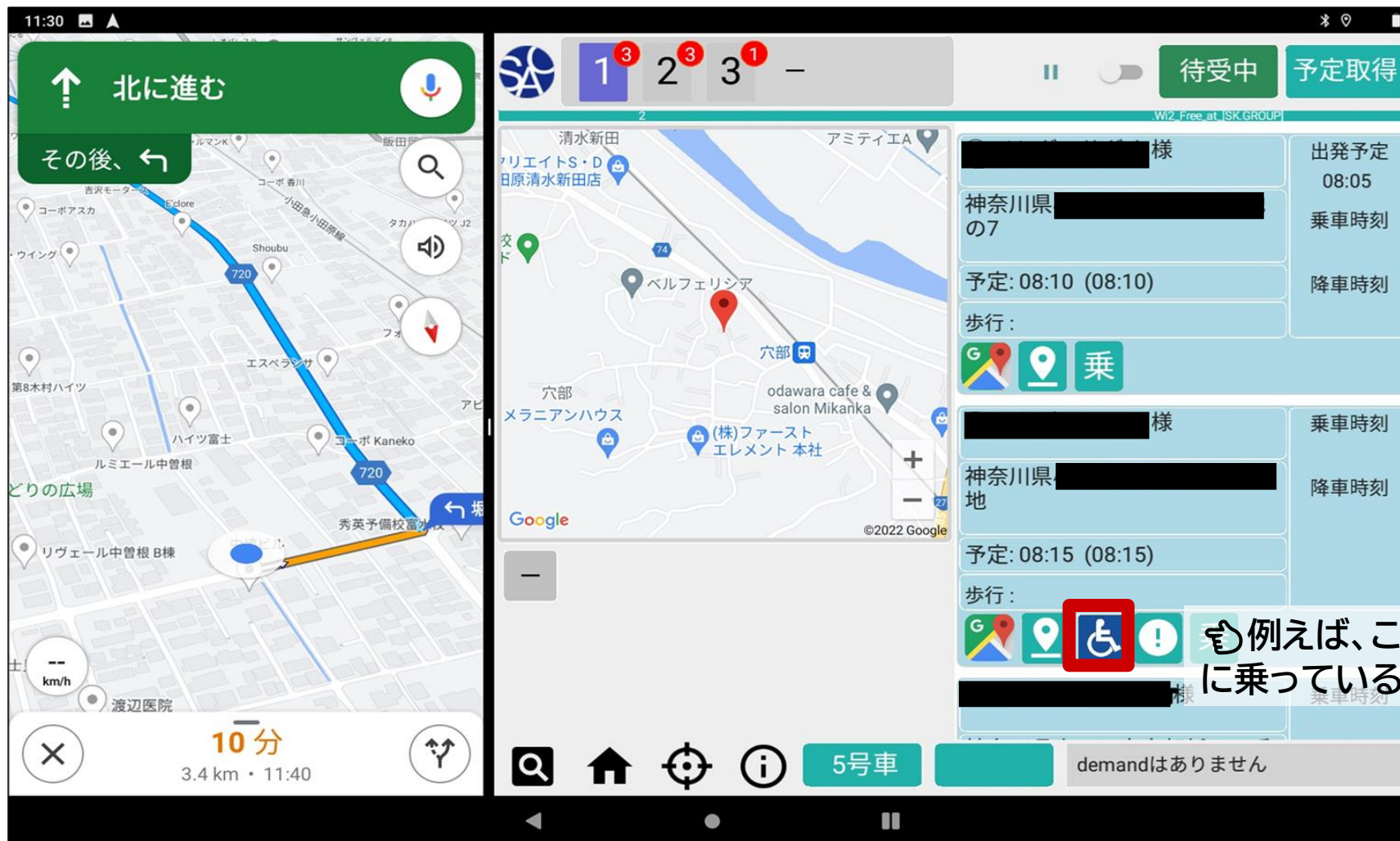
運転手	坂井
STATUS	未検査です。
実施日時	
記録の入力が確認されない限り当該運転手の車載アプリ使用による運行は許可されません。	
登録には管理者のパスワードが要求されます。	
登録する	

検査終了後、
ステータスが変更されます。



運転手	坂井
STATUS	アルコールチェック済み
実施日時	2022-07-21 20:13:27
記録の入力が確認されない限り当該運転手の車載アプリ使用による運行は許可されません。	
登録には管理者のパスワードが要求されます。	
登録する	

利用者ごとの注意事項も事前にお知らせするため、円滑な送迎が可能です。



例えば、この方の場合、事前に車椅子に乗っている方だと分かります。

利用者向け メリット 送迎車両の現在地通知

ご利用者・ご家族のスマホで、送迎車両の現在地をリアルタイムで確認できるため、
「送迎が来ないかも…」という不安がない状態でお待ちいただくことが可能です。
利用者のご家族には大変喜んでいただいているサービスです！



👉 ボタンをワンタップするだけ！



福祉現場の効率化・負担軽減による目標設定

目 標④

介護人材の確保

送迎業務をタクシー等へ委託
介護度の低い利用者の
共同送迎連携

フェーズ1（約6か月）

フェーズ2（約3か月）

フェーズ3（約3か月）

目 標①

送迎シフト管理

業務効率化・負担軽減

福祉Moverの導入
送迎シフトのデジタル化

送迎・車両管理担当の業務デジタル化

- ・シフト作成
- ・運行管理
- ・車両管理

目 標②

送迎業務全体

業務効率化・負担軽減

送迎車両への福祉Mover導入
送迎業務のデジタル化

送迎に関わる業務のデジタル化

- ・運行確認
- ・運行記録
- ・利用者情報

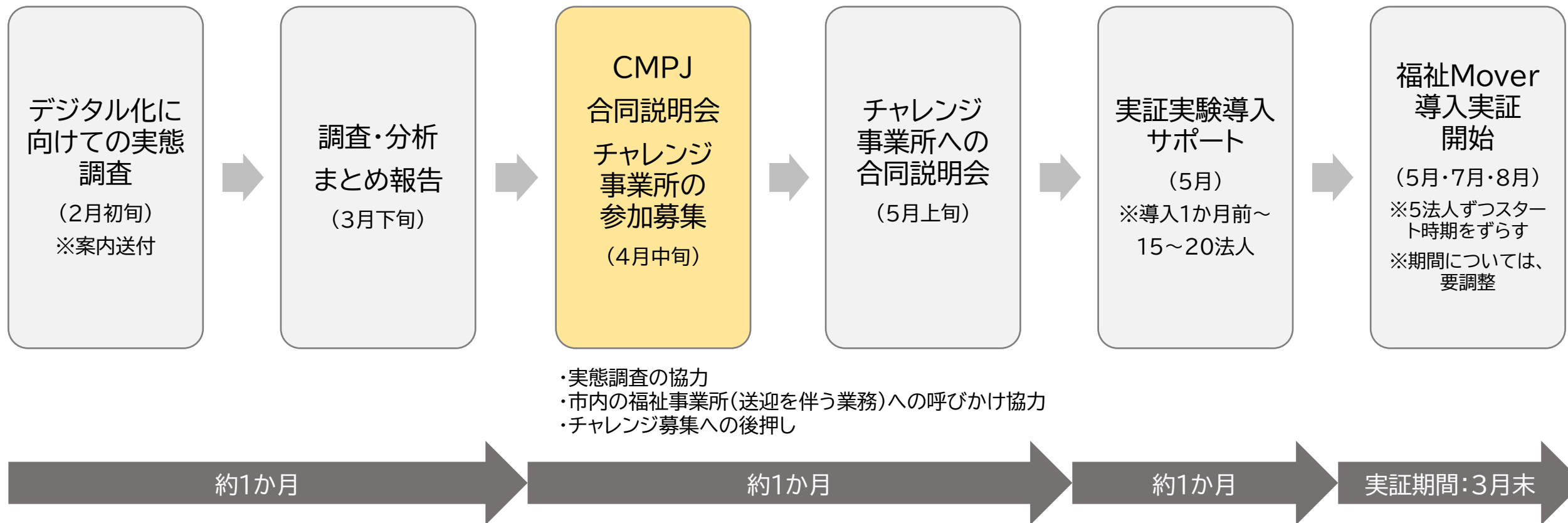
目 標③

利用者増(収益UP)

最適配車による利用者増
効率化による経費減
＝福祉Moverの導入経費捻出

福祉Mover導入までのスケジュール(3市2町エリア)

【フェーズ1】





福祉Moverのランニングコスト(送迎車両5台で使用する場合)

クロスモビリティPJ(実証実験期間中)にかかる費用についての施設負担はありません。実証実験については、3月末までの最長12ヶ月を想定

2年目からは福祉Moverの利用料がかかります。
サポートが必要な場合は要相談



2023年度	送迎車両5台で 12ヶ月使用の場合	実証実験期間中は負担なし
1施設あたりの初期設定・導入支援費用	¥250,000	
福祉Mover全体システム利用料 1施設あたり月7,000円×本部パソコン1台×12ヶ月	¥84,000	
福祉Moverスマホアプリ使用料 スマホ1台あたり月1,500円×車両台数×12ヶ月	¥90,000	
スマホリース料 スマホ1台あたり月3,000円×車両台数×12ヶ月	¥180,000	
スマホ用通信SIM利用料 スマホ1台あたり月1,500円×車両台数×12ヶ月	¥90,000	
スマホ用車載ホルダー スマホ1台あたり2,000円×車両台数	¥10,000	
スマホ用ケース スマホ1台あたり1,000円×車両台数	¥5,000	
合計	¥709,000	



2024年度	送迎車両5台で 12ヶ月使用の場合
1施設あたりの初期設定費用	¥0
福祉Mover全体システム利用料 1施設あたり月7,000円×本部パソコン1台×12ヶ月	¥84,000
福祉Moverスマホアプリ使用料 スマホ1台あたり月1,500円×車両台数×12ヶ月	¥90,000
スマホリース料	各施設で準備 ※リース契約 継続も可
スマホ用通信SIM利用料	
合計	¥174,000

※上記価格は、実証実験期間中における価格設定となり、本契約する場合と一部異なることもございます。また、別途消費税がかかります。

CMPJ3市2町の協力

滑川市:担当課 社会福祉協議会

魚津市:担当課 社会福祉協議会

入善町:担当課 社会福祉協議会

朝日町:担当課 社会福祉協議会

新川介護保険組合 SMARTふくしらボ

新しい福祉サービスの開発

黒部市:担当課 社会福祉協議会

新川介護保険組合管内での協力

研究機関
東京大学
フレイル研究
(予定)

CMPJ

事業主体
SMARTふくしらボ
事業設計
実証実験の中心

新しい福祉サービスの開発については、
黒部市エリアのみで実施します。

福祉現場の効率化・負担軽減

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

事業所

○対象
・3市2町のエリアで、介護、
医療等送迎業務を伴う事
業所(95か所)を対象に
チャレンジを呼びかけ

○3期で募集
・5月スタート
・7月スタート
・8月スタート

○募集上限
・20事業所

	2022年度		2023年度上期						2023年度下期						2024年度	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
1)送迎のデジタル化(福祉Mover実証) ①チャレンジ事業所全体会議	実態調査	参加募集	CMPJキックオフ 合同事業説明会						中間報告会					最終報告会		
②実証実験3パターン ア. 第1期(5月スタート)									※次年度継続の場合またはマージ送迎希望の場合は年度末まで無償提供							
イ. 第2期(7月スタート)			参加同意	送迎管理・車両管理 業務のデジタル化												
								送迎に関わる業務のデジタル化				実証実験継続		本契約		
											次年度導入 意思決定	※次年度以降、継続しない場合は実証実験終了				
					参加同意	送迎管理・車両管理 業務のデジタル化										
ウ. 第3期(8月スタート)									送迎に関わる業務のデジタル化				実証実験 継続	本契約		
												次年度導入 意思決定				
③マージ送迎、次年度継続事業所												本契約に向けての準備調整 共同運行、送迎委託実証				
④導入支援			オンライン、訪問、打合せ													
⑤効果検証			ヒアリング、アンケートによる効果検証													
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	

「クロスモビリティプロジェクト」スケジュール(予定)

期間:2023年2月～2024年3月

日程	事業計画	区域	備考
2023年3月	福祉現場のデジタル化に向けての実態調査	3市2町	
	調査結果とりまとめ		
4月	「送迎業務のデジタル化」チャレンジ事業所参加募集	3市2町	
	チャレンジ事業所への合同説明会	3市2町	説明会2回 オンラインでも実施
5月	実証実験の準備打ち合わせ		意思確認、同意書等
	訪問による現地調査		各実施事業所への訪問
	第1回CMPJキックオフ・事業説明会	3市2町	
5月	送迎のデジタル化(福祉Mover)実証スタート(第1期)	3市2町	
7月	送迎のデジタル化(福祉Mover)実証スタート(第2期)	3市2町	
8月	送迎のデジタル化(福祉Mover)実証スタート(第3期)	3市2町	
10月	第2回CMPJ中間報告	3市2町	報告会への出席
2024年3月	第3回CMPJ最終報告	3市2町	報告会への出席

※その他、必要に応じて相談や打合せをさせていただきます。

SMARTふくしらボが目指す状態

介護需要のピークである2030年までに福祉分野の
人材不足を解消する。



福祉Mover(アプリケーション)を活用した
送迎のデジタル化

送迎にかかる時間と経費が抑えられ、
福祉人材が現場での仕事に、より多くの時間をかけることができる。

働きやすい職場・
人員増だけではなく、効率化による労働力確保